

基準 9. 教育研究環境

9-1 教育研究目的を達成する為に必要なキャンパス（校地、運動場、校舎等の施設設備）が整備され、適切に維持、運営されていること。

(1) 事実の説明（現状）

9-1-① 校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、附属施設等、教育研究活動の目的を達成するための施設設備が適切に整備され、かつ有効に活用されているか。

1) 校地・校舎

- ・ 校地及び校舎についての概要を表 9-1-1 に示す。

表 9-1-1 大学設置基準との比較

	校地面積(m ²)	設置基準上必要な校地面積(m ²)		校舎面積(m ²)	設置基準上必要な校舎面積(m ²)
津田沼校地	53,259.96	78,700.00	津田沼校地	65,058.94	83,038.90
芝園校地	123,700.00		芝園校地	39,473.27	
茜浜校地	98,304.00		茜浜校地	411.47	
千種校地	155,006.00		計	104,943.68	
計	430,269.96				

2) 施設概要

- ・ 講義室や演習室、自習室についてはデータ編表 9-2、実験・実習室の面積規模等についてはデータ編表 9-3、研究室の内訳についてはデータ編表 5-10 に示すとおりである。
- ・ 教育研究や学生生活の満足度をより高めるため、本学では平成 18(2006)年から、津田沼と芝園の両キャンパスで再開発計画を進めている。
- ・ 津田沼キャンパスでは、平成 20(2008)年 9 月の供用開始を目標に、現在、地上 20 階建・高さ約 93 メートルの新 1 号棟を建設中である。新 1 号棟は教員研究室や実験室、演習室等から構成される高層棟と、大規模実験が可能な実験室や製図室、600 人近くの人員を収容する大講義室を備える低層棟で構成されている。更に高層棟の最上階である 20 階には学生向けのラウンジを設置し、教育研究環境の充実を図っている。新 1 号棟完成後には、既設建物の一部を取り壊し、新 1 号棟の高層棟と同程度の新 2 号棟と学生ホール棟の建設が計画されている。
- ・ 芝園キャンパスでは津田沼キャンパスの新 1 号棟に先立ち、平成 20(2008)年 3 月に新校舎（12 号館）が完成した。学生がキャンパスライフをより楽しく豊かに過ごせる環境（施設）整備計画の一環として建設したもので、学生自習室や談話室、製図室・演習室、学生自由工作室等の他、アスレチックジム、3on3 バスケットコート、スカッシュコートや展望ラウンジを設置し、教育研究活動及び学生生活の全般を支える施設設備の充実を図っている。

3) 運動場等

- ・ 運動施設としてはこの他、芝園キャンパスに体育館として 4 号館（延床面積／3,706.14 m²）、茜浜校地には専用野球場（1 面）、サッカー場（1 面）、ラグビー場（1 面）、陸上競技場、テニスコート（6 面）、ハンドボールコート（2 面）、バレーボールコート（2 面）、

この他、屋内施設（柔道場、剣道場、弓道場、部室、倉庫等）を有している。更に千種校地には専用野球場（1面）、野球グラウンド（6面）、サッカー場（1面）、ラグビー場（1面）を備えた、広大な運動場を有している。

- ・ 本学の運動施設は、体育関係の授業、課外活動及び大学体育祭などに使用されている他、学外に対しても、地域少年野球の練習場やサッカー教室の練習場などの会場として貸し出している。

4) 図書館

- ・ 津田沼・芝園の両キャンパスに図書館を整備しており、約 25 万冊の図書及び約 2,900 種の学術雑誌を所蔵している。
- ・ 二つの図書館はネットワークによって結ばれており、自由に所蔵検索、貸出、返却の手続きが可能となっている。
- ・ 最新の学術情報を入手するためのオンラインジャーナル、文献を取り寄せるための文献複写サービス、視聴覚機器類の他、自学自習室には情報コンセントを整備している。
- ・ 両図書館の概要は下記の通りである。

①津田沼キャンパス図書館：（延床面積 1,687 m²／閲覧席 257 席／蔵書数 約 52,000 冊／開館日数 年 263 日／開館時間 9:00～21:45／入館者数 年間延べ約 14 万人）

②芝園キャンパス図書館：（延床面積 3,312 m²／閲覧席 610 席／蔵書数 約 20 万冊／開館日数 年 263 日／開館時間 9:00～21:30／入館者数 年間延べ約 24 万人）

5) 情報サービス・IT 環境等

- ・ 学内 LAN については平成 16(2004)年に LAN 設備を更新し、津田沼、芝園の 2 つのキャンパスにあるすべての教室及び研究室、事務室など約 1,000 カ所とネットワークコアスイッチとを中継のネットワーク機器を用いずに光ファイバーで直接結ぶ「次世代ネットワーク＝通称 MARINE (Multimedia Archives & Resource Intercross Network)」を整備した。これにより各研究室や事務部門では、家庭でのインターネット利用と同様に容易にネットワーク接続が可能となり、専門的なネットワークの維持・管理の負荷が低減された。また、すべての教室で学内 LAN が使用できることにより、マルチメディア教材やインターネット上の教育リソースの活用等授業方法の改善につながっている。
- ・ 情報コンセント付きの机を設置した教室は 19 教室、図書館等の自習室が 7 室ありコンセント数は約 1,800 口ある。更に芝園新 12 号館のすべての教室に無線 LAN のアクセスポイントを設置している。これらのコンセントやアクセスポイントにより学生はノートパソコンを持ち込み自由に学内 LAN 及びインターネットにアクセスすることができる。
- ・ ノートパソコンに関しては、津田沼・芝園の各図書館で PPA (Parents and Professors Association : 保護者と教職員の会) の援助による貸し出しパソコンも用意している。このような環境により、学生はレポート等の作成に IT 環境を活用している。
- ・ メールサーバーなどの学内の様々な共有サーバーは、すべてファイアウォールのもとに管理されており、セキュリティにも配慮している。また、利用に関しては、学生・教職員ともに一元的な ID とパスワードで管理され、シングルサインオンのためのポータルサイト構築により安全で快適にネットワークリソースを利用することが可能である。
- ・ 情報処理教育及び情報機器を活用した専門教育のための実習・演習室の整備状況としては、芝園キャンパス（2 演習室 延床面積合計 618.03 m²）にパソコン 290 台、津

田沼キャンパス(3演習室 延床面積合計 1,314.80 m²)にパソコン 400 台設置している。芝園キャンパスの 2 つの「演習室」と津田沼キャンパスの「コンピュータ演習室 2」は、リテラシー教育と専門基礎教育のためのアプリケーションが装備され、津田沼キャンパスの「コンピュータ演習室 1」は専門教育及び大学院教育のための高度な CAD や CG、バイオインフォマティクスのアプリケーションが装備されている。更に津田沼キャンパスの「コンピュータ演習室 3 (情報系演習室)」には仮想化マシン環境を構築し、管理者権限の必要なシステム管理演習や、複数台の仮想マシンを使用した分散システム演習等の授業に活用されている。

- ・ 演習室で使用しているいくつかのアプリケーションについては、キャンパスライセンス等の契約を結ぶことで、学生の自宅での利用や研究室での利用など便宜を図り、学習の継続性を考慮している。
- ・ 演習室を授業で利用しない時間帯は学生に自由開放し、主に授業の課題作成や自習に利用されている。その他、パソコン関係の公開講座の会場として利用されている。なお、各演習室の開放時間は学生が授業で学内に滞在する時間帯を最大限に考慮し、授業期間中は日曜日を除く午前 9 時から午後 9 時までとしている。

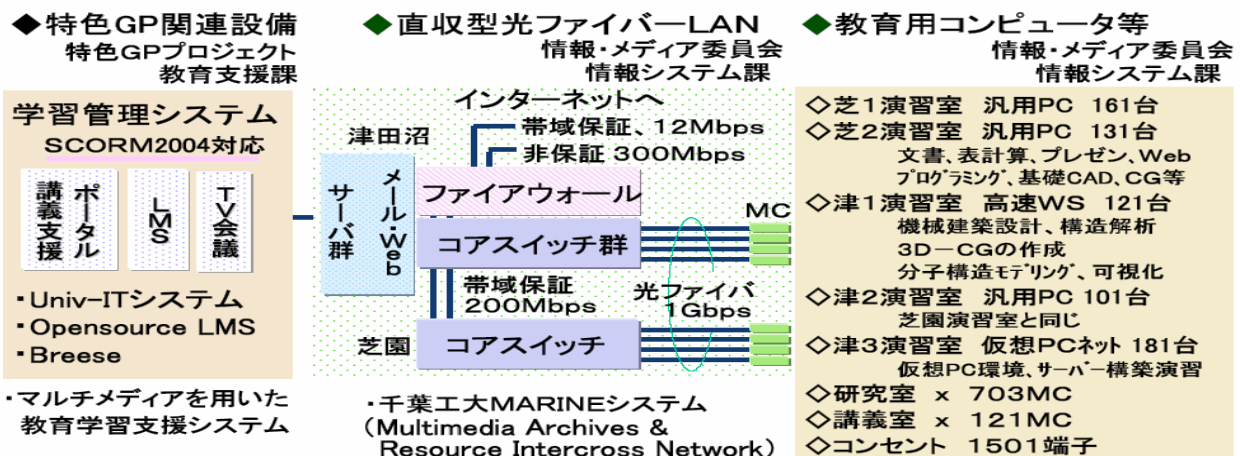


図 9-1-1 情報環境

6) 附属施設・その他

- ・ 教育研究機関として下記施設を有しており、外部資金による受託研究や、学内外の研究機関との共同研究を推進する場として運用されている。
 - ①材料解析室：(延床面積 243.80 m²)
 - ②工作センター：(延床面積 469.96 m²)
 - ③総合研究所、レンタルラボ：(延床面積 2,641.95 m²)
 - ④未来ロボット技術研究センター：(延床面積 440.33 m²)
- ・ 建学の精神をより実践的に体験する場として本学では学生寮を整備している。(詳細は特記事項に示す)
- ・ ゼミ合宿や教職員の研修、学生サークル活動の宿泊施設として、下記のとおり研修センターを設置している。
 - ①軽井沢研修センター：(土地 1,418.21 m² / 延床面積 343.03 m²)

長野県佐久郡軽井沢町。旧軽井沢三笠通りの美しいカラマツ並木を抜けた閑静な場所に位置している。利用可能期間は夏期休業期間中となっている。

②飯岡研修センター：(土地 33,909.00 m²／延床面積 498.45 m²)

千葉県旭市。松林と白い砂浜に囲まれた九十九里浜に位置している。年末年始を除き、年間を通じて利用可能な施設となっている。

③御宿研修センター：(土地 3,214.00 m²／延床面積 1,584.59 m²)

千葉県御宿町。太平洋の美しい海を臨む緑豊かな南房総国定公園の高台の上に立地している。年末年始を除き、年間を通じて利用可能となっている。

9-1-② 教育研究活動の目的を達成するための施設設備等が適切に維持、運営されているか。

- ・ 施設全般に関する維持管理に関しては、法人事務局の施設部が責任を担っており、日常的なメンテナンスから建物の大改修工事の予算措置まですべての業務を行っている。
- ・ 教育関係施設等は、施設部が関係部署と連携して改修・改善の必要性を判断し、維持運営に努めている。なお、施設部には専門的知識・技術を有する技術職員が配置されており、日々の設備点検から急を要する施設設備の不具合対応等にあたっている。
- ・ 図書館については図書館事務室と運営全般を業務委託している民間企業にて施設部と連携を取りながら適切に維持運営している。
- ・ 情報サービス・IT環境については、情報システム課が学内 LAN 及びコンピュータ演習室の管理と運営を行っている。特にソフトウェアの更新に関しては、各学科の教育課程の改編を考慮し、情報・メディア委員会で審議し、適切に行っている。
- ・ 各研修センター、学生寮については、大学事務局学生センター所属の職員が管理運用をし、施設部と連携を取りつつ適切に維持運営している。

(2) 9-1の自己評価

- ・ 校地面積は大学設置基準上必要な面積の約 5.5 倍、校舎面積は約 1.3 倍と大学設置基準を十分に満たしている。
- ・ 教員研究室、講義室、演習室、自習室、学生用実験・実習室については、学科によって多少の差異はあるもののそれぞれ充実しており、効率的に運営されている。
- ・ 授業及び課外活動を行う運動施設は十分に整備されており、本学のみ利用に止まらず、一般にも貸出しを行うなど地域社会へも貢献している。
- ・ 図書館については、津田沼キャンパスの図書館規模は大きいとはいえないものの、蔵書構成と蔵書数、機能、開館時間や開館日数等、利用者のニーズに沿った効率的な運営を行っている。
- ・ 情報サービス・IT環境に関しては、ハードウェアのみならずソフトウェアも含め教育研究での利用を適切に把握し、学内 LAN、情報コンセント、パソコン及び演習室を整備している。また、その管理・運用は情報システム課を設置し、適切に行っている。
- ・ 専門の研究施設、学生寮、研修センター等も充実しており、維持管理から運用まで適切に行っている。
- ・ 本学は教育研究目的を達成するために必要なキャンパス（校地、運動場、校舎等の施設設備）を整備しており、適切に維持、運営している。

(3) 9-1の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 施設設備の整備・改修にあたっては、関係部署との連携を更に強化し、学生からのニーズを把握することに努め、学生の要望をより多く取入れたかたちでの計画を推進して

いく。

- ・ 図書館については、平成 19(2007)年度の後期試験期間に合わせて試験期間前の休日開館を試験的に実施したが、平成 20(2008)年度からは前・後期試験期間にあわせて試験期間前の休日開館を実施する予定である。また、試験期間中の土曜日の開館時間を 2 時間延長するなど、利用者のニーズに合った運営を実施する。

9-2 施設設備の安全性が確保され、かつ、快適なアメニティとしての教育研究環境が整備されていること。

(1) 事実の説明(現状)

9-2-① 施設設備の安全性が確保されているか。

1) 耐震工事・アスベスト対策の実施

- ・ 新耐震基準以前の建物について耐震診断をした結果、耐震基準を下回っていた津田沼キャンパス 2 号館・3 号館・西側校舎(平成 7(1995)年実施)及び本館(平成 10(2000)年実施)に対する耐震補強工事はすべて終了している。
- ・ アスベスト工事は、平成 17(2005)年に津田沼キャンパス 4 号館(廊下・ホール)及び機械実験室に対して天井囲い込み工事を行い、千種寮については、吹き付け石綿除去工事を実施した。更に平成 18(2006)年に 4 号館(居室)の天井囲い込み工事を実施し、学内におけるアスベスト除去及び天井囲い込み工事についてはすべて終了した。

2) 身障者対策の実施

- ・ バリアフリー対応として、両キャンパスの各建物に身障者対応のスロープやエレベーターを設置しており、身障者専用のトイレも併せて設置している。現在、主要建物の出入り口の自動ドア化を順次進めている。

3) 防火対策等の実施

- ・ 各キャンパス・学生寮に防火管理者 1 人を置き、防火対策審議会を開催して消防計画書を作成し所轄の消防署に提出している。春・秋の防災週間には、教職員及び学生参加の避難訓練(消火器・消火栓を使用した消火訓練)を実施したり、防災ビデオを回覧したりし、緊急時に速やかに対応できるよう啓蒙活動を行っている。
- ・ 法令に基づき消防設備定期点検報告書(年 2 回)及び総合設備定期点検報告書(3 年に 1 回)を提出している。
- ・ 火災報知機・非常警報装置等の受信機を警備室に設置し、非常時に備え 24 時間警備を行っている。

4) 設備等定期点検の実施

- ・ 電気設備・エレベーター・建物・受水槽・浄化槽等の定期点検は専門業者に委託し、法令に基づき随時所轄の行政機関に報告書を提出している。
- ・ 本学では井水を飲料水(小規模水道)として利用しているため、市に地下水揚水量報告書を提出し、また、井水装置のメンテナンス(機能・使用量報告 月 1 回、水道法に準じた水質検査)を業者委託し、安全に努めている。

5) 安全委員会の設置

- ・ 快適な学生生活を送るためのサポート役と安全確保のために、安全委員会を設置している。

- ・ 安全委員会では、実験・実習上も含め大学生活上考え得る種々の危険に対する心構え等を記した「安全の手引き」を作成し、新入生全員に配布して安全に対する認識を深めている。なお、クラフトハウスを利用する学生に対しては、専任スタッフ(職員)を配属し、常に安全確保のために指導及び助言を行っている。
- ・ 各講義室及び実験室には、事故又は火災発生時の連絡先、連絡方法を示した「緊急時の連絡方法」のプレートを掲示している。

9-2-② 教育研究目的を達成するための、快適な教育研究環境が整備され、有効に活用されているか。

1) 講義室内の環境整備・充実

- ・ 快適な教育研究環境の整備と教育効果の向上を目的として、平成 15(2003)年から 5 年計画で全講義室にプロジェクターを設置している。
- ・ 講義室内の照明器具に関し、平成 20(2008)年 3 月に完成した芝園キャンパスの 12 号館では、座席の場所によって不快な眩しさを感じないように、授業に集中し易い光環境が得られる照明器具を導入した。既存の講義室等に関しても、快適な光環境を得つつも省エネタイプの照明器具を導入している。
- ・ 空調設備については、講義室内の快適な温熱環境を得つつも環境負荷に配慮した空調システムの検討と導入を適宜行っている。

2) クラフトハウスの設置

- ・ 工作を通じた学生の自由な創作活動の支援や、授業における実習(ものづくり)の場を提供することを目的に、芝園キャンパスにクラフトハウスを設置した。設置後、授業及び実習等で頻りに利用されたことを受け、授業以外の時間でも自由に利用できるよう、夏期・冬期の休み期間中も開放。これにより、学生の利用が一段と増え、教育支援の施設として十分に活用されている。(現在、クラフトハウスの機能は平成 20(2008)年 3 月完成の芝園 12 号館に移動し、「学生自由工作室」となっている。)

3) 研修センターの設置

- ・ 従来の研修センター(飯岡・軽井沢)は収容人数が各 30 人と少なく、また、軽井沢研修センターは夏休み期間中のみと季節限定の利用であったため、課外活動の他にゼミ合宿などでも利用可能な教育支援の施設として、平成 18(2006)年に緑豊かで静寂な自然環境に囲まれた千葉県夷隅郡御宿町に御宿研修センターを設置した。
- ・ 同施設は収容人数 60 人、年間を通じて利用が可能で、1 年目の利用者は約 1,200 人、2 年目は約 1,600 人と年々利用者が増え、キャンパス以外での教育支援の場として有効に活用されている。

4) 構内清掃と美化活動

- ・ 構内の清掃は両キャンパスともに一部外部委託しており、年 2 回の大規模な定期清掃の他に、毎朝、講義開始前までに講義室内の清掃を終え、快適な環境下で授業を行えるようにしている。
- ・ キャンパス内の美化に係わる組織として、学生と教職員から構成する環境美化委員会を設置している。ゴミの分別化や喫煙場所の徹底等のピーアール活動や定期的にクリーンウィークと称したゴミ拾いのボランティア活動を実施するなど、快適な教育研究環境の整備に学生と教職員が一体となって取り組んでいる。

(2) 9-2の自己評価

- ・ 教育研究活動を推進するための施設設備は充実しており、有効に活用されている。
- ・ 施設設備の安全性を確保するため、安全委員会及び各関連部署との連携を密にしており、常に問題の早期発見及び対応に努めている。
- ・ 施設設備については、適切な時期に法定点検及び自主点検整備を行い、故障が発生しても教育研究に支障をきたさないよう迅速な対応を行っている。
- ・ 本学は施設設備の安全性が確保され、かつ、快適な教育研究環境を整備している。

(3) 9-2の改善・向上方策（将来計画）

- ・ 新校舎の建設及び改修工事にあたっては、快適でありつつも環境負荷に配慮した省エネタイプの設備（空調設備・照明器具）の導入を推進していく。
- ・ 魅力あるキャンパスの整備として、教育研究活動の活性化や学生生活の満足度をより高める事を目標に、津田沼・芝園両キャンパスにて1期・2期からなる5カ年の再開発計画を進行中であるが、1期工事完成予定の平成20(2008)年夏期以降も新2号棟等の2期工事に向け教育環境の充実を図っていく。
- ・ 新2号棟では、新1号棟と同様に、研究室や実験室等の教育研究施設の他、法人・大学事務局等の本部機能も備える計画である。
- ・ 現在、津田沼キャンパスの学生食堂は4号館地下1階に設置しているが、学生がキャンパスライフを楽しめるスペースとして、テラス・ウッドデッキ等を取り入れた新しい学生食堂（学生ホール棟）を平成22(2010)年4月オープン目標に現在計画している。
- ・ 芝園キャンパスは既存校舎の改修により、学生のためのリラクゼーションルームや談話スペースの整備など更なるアメニティ充実に向けた計画を進行中である。

[基準9の自己評価]

- ・ 本学の津田沼・芝園の両キャンパスは直線距離で約3kmと近い距離にあり、それぞれの立地条件も津田沼キャンパスはJR総武線津田沼駅の正面に位置し、芝園キャンパスはJR京葉線新習志野駅から徒歩7分と、交通アクセス良好な環境下にあり、その広さと併せ、学生の教育環境としては十分なものとする。
- ・ 施設設備の維持・運用に関しては、施設部を中心に関係部署・委員会との連携により適切に行っている。
- ・ 課外活動の場としては、茜浜運動施設・学生寮・各研修センター等の施設が整備されており、有効に活用している。
- ・ 情報施設・図書館施設も適切な環境が整備されており、効率的に運用している。
- ・ アスベスト対策・耐震工事は実施しており、防火対策や衛生面の定期点検も適切に実施し、安全対策に努めている。
- ・ バリアフリー化については、エレベーター設置や建物入り口の自動ドア化などを計画的に進めている。

[基準9の改善・向上方策（将来計画）]

- ・ 今後の改善・向上方策として、教育研究環境の更なる充実を目指し、現在進行中の津田沼・芝園両キャンパスの再開発を推進する。